２０２０年度（令和２年度）

事　業　報　告　書

社会福祉法人　星谷会

社会福祉法人星谷会　２０２０年度事業報告

＝　　目　　次　　＝

社会福祉法人星谷会　事業報告　2

星谷学園・星谷デイさくら　事業報告　9

計画相談支援事業所ほしや　事業報告　１３

あまいろ　事業報告　１４

地域活動支援センター結夢　事業報告　１６

結夢＋　事業報告　１８

ＳＥＬＰビナ　事業報告　１９

海老名市障害者第一デイサービスセンター　事業報告　２４

海老名市障害者第二デイサービスセンター　事業報告　２８

海老名市障害者支援センターあきば　事業報告　３１

グループホーム事業報告　３５
（みずき・しおん・とんぼ・かぶとむし・はなきりん・てんとうむし・ほたる）

地域生活支援センターここ・すき　事業報告　３７

２０２０年度　社会福祉法人星谷会事業報告

１．2020 年度の概要

2020 年度は、新型コロナ感染症予防対策に追われた年となった。緊急事態宣言下の利用者支援や事業所運営のあり方について協議を行い、国や県の対応方針に合わせてその都度職員に周知してきた。その結果、職員 1 名が陽性となった他は事業所内のクラスター発生を抑えることができた。しかし、利用者支援では、外出や外泊の中止、季節行事の縮小や中止など、利用者が楽しみにしている活動を提供できなかった。また、法人が計画していた地域貢献事業や研修会なども中止にせざるを得なかった。今後も感染予防を優先した対応を継続する必要があると思われる。

事業面では、中期計画に沿ってグループホームを開設し、法人が運営するホームは 7 住居となった。新ホームの入居者は全員在宅者で、入所施設から移行者はいなかった。またグループホームでは、夜間支援の運用について労基署から指導があり、次年度から夜間勤務と休憩時間を明確にした勤務体制に変更することになった。

利用者支援では、星谷学園入所利用者が事故死するという残念な出来事があった。現在、事故調査委員会おいて当日の対応や日常的な支援や備えが適切であったかについて検討している。その結果をこれからの利用者支援に活かしていくことが私たちの使命と考える。

２．法人重点事業の取組み状況

(1) 第三期中期計画の策定

第二期中期計画の事業評価を実施し第三期計画策定にあたっての課題を抽出した。第三期計画については、2021 年度の法人事業推進の課題と併せて策定し実施する予定。

(2) 意思決定支援の取り組み

各事業所の重点目標に掲げる。実際の研修や取り組みに関しては、新型コロナウィルス感染予防対策に追われ具体的な取り組みには至らなかった。

(3) 地域生活拠点事業の推進

委託相談支援事業所「結夢・結夢＋」を中心に海老名市と 2 回協議を行う。海老名市第 6 期障がい福祉計画に事業推進に向けた取り組みとして位置づけられる。

(4) グループホーム事業の強化

2021 年 1 月に新規グループホーム「ほたる」（定員 7 名）を開設する。それに伴い常勤職員 1 名を増員した。

(5) 新型コロナウィルス感染症予防対策

2020 年 4 月 7 日に発出された緊急事態宣言を受け、5 月 7 日～5 月 31 日に渡り、各事業所とも利用日、利用日数の制限を行う緊急対応を実施した。その他に新型コロナウィルス感染症予防強化対策として法人内に第 4 報から第 10 報の周知文を発出した。併せて新型コロナウィルス感染症対応の BCP を策定した。

(6) その他

地域生活支援センターここ・すきの事業については、新型コロナウイルスの影響等により、経営が困難と判断し 3 月 31 日付けで事業を休止とした。また、セルプビナのパン

作業については、事業の体制を維持することが困難と判断し作 3 月 31 日付けで作業を中止することとした。併せて、パンビーナについても 3 月 31 日当面事業を休止することとした。

３．2020 年度の主な事業内容

【事業所の運営】

(1) 星谷学園、星谷デイさくら、ＳＥＬＰビナ、あまいろの運営
(2) グループホームみずき及びはなきりんの運営（７住居）
(3) 地域生活支援センターここ・すきの運営（居宅介護及び移動支援事業）
(4) 計画相談支援事業所ほしやの運営

【指定管理制度による事業】

(1) 海老名市障害者第一・第二デイサービスセンターの運営
(2) 海老名市障害者支援センターあきばの運営

【委託による事業】

(1) 地域活動支援センター事業及び相談支援事業の実施（結夢の運営）
(2) 結夢＋の運営
(3) 海老名市自立支援協議会の運営（事務局）

【法人運営・財務】

(1) 理事・監事及び理事長の選任
(2) 学園建設積み立て　第一デイ・あきば人件費の積立

【職員処遇】

(1) 福祉・介護職員処遇改善及び特定処遇改善の実施
(2) 健康診断・ストレスチェック等の実施
(3) 労災上乗せ保険の加入

【規程の改定など】

(1) 給与規程の改定　　給食支援手当の廃止及び特定処遇改善手当の創設に伴う改定
(2) 嘱託就業規則の改定　　同上
(3) パート就業規則の改定　給食支援手当及び期末手当の廃止、年次有給休暇表の修正
(4) パート職員の雇用に関わる細則　時給の引上げ（130 円）
(5) 経理規程の一部改定　　本部拠点区分を創設、字句の修正
　　ホームほたるのサービス区分の追加
(7) 役員報酬規程の改定　　常勤役員の勤務時間の変更
(8) 職員の初任給、昇給、昇格に関する規則　　主任の任命手順の明確化

【施設・設備整備など】

(1) 星谷学園トイレ等の改修

【その他の事業】

(1) 地域貢献事業：新型コロナウィルス感染症予防のため未実施
(2) 地域生活サポート事業
　①防災拠点事業　防災備品の整備等
　②地域交流事業　星谷祭り、
(3) 製品販売やショップを通じた交流事業

①イベント開催：新型コロナウィルス感染症予防のため未実施

②実習生・ボランティア受け入れ

(4) 地域障がい者団体等との交流及び連携事業

・新型コロナウィルス感染症予防のため未実施

４．利用契約及び職員配置状況⇒各管理者

事業所名		本部	星谷 さくら	ビナ	あまいろ	第一デイ	第二デイ	第三デイ	ホーム	ここ すき	結夢 結夢＋	合計
契約(登録)者数			67	40	13	39	38	66	46	99	563	延 917
職員合計		2	55	11	9	12	12	26	42	2	8	179
内訳	常勤	2	30	7	4	8	7	14	6	1	7	86
	非常勤	―	25	4	5	4	5	12	36	1	1	93

採用職員：常勤 10　非常勤 17　　退職職員：常勤 7　非常勤 12

５．２０２０年度神奈川県法定研修受講状況

(1) 神奈川県サービス管理責任者等研修

研修名	受講者	備考
県サービス管理責任者等基礎研修	安部可奈子（あまいろ）	シーガル研修・研究機構
	粕田大五郎（あきば）	かながわ福祉サービス振興会
県サービス管理責任者等更新研修	亀田明芳（GH）・河原雄一（学園）	KCN

(2) 神奈川県強度行動障害支援者養成研修

研修名	受講者	備考
県強度行動障害支援者養成研修（基礎）	原　貴子（学園）」	清和会
県強度行動障害支援者養成研修（実践）	赤塚久美子（あまいろ）	藤沢育成会⇒コロナ禍で研修が中止

(3) 行動援護従事者養成研修

研修名	受講者	備考
行動援護従事者養成研修	星　伸一（かっぱ堂）	

(4) 神奈川県相談支援従事者研修

研修名	受講者	備考
県相談支援従事者現任研修	鈴木越（レインボー）・星伸一（かっぱ堂）	KCN

(5) 神奈川県サビ児管研修及び相談支援従事者等研修ファシリテーター

ファシリテーター
三澤貴広（学園）白井周一郎（ビナ）白石雄希（あきば）亀田明芳（GH)谷岡裕子（結夢）河原雄一（学園）長峰浄子（デイさくら）

６．法人委員会の活動状況

(1) 研修委員会 ⇒白石

階層別研修

研修名	対象者	テーマ・内　　容	講師	実施時期	会場
初任者 研修	勤務 4 年 未満 参加者数 22 名	「モニタリングの充実について」 受講者の担当する事例を用いて共通のツールを使ってモニタリング会議等の実際を学ぶ。	河原雄一 総合施設長	10 月 16 日（金）	海老名市 文化会館 ３５１
中堅＆上級 職員研修	4 年以上 参加者数 22 名	「ＧＳＶ（グループスーパーバイズ）について」講義により GSV を理解する。コロナ禍により zoom を使用しての web での講義のみの開催とした。	河原雄一 総合施設長	12 月 21 日（月） 17:30～18:30	海老名市 文化会館

内容別研修（課題別研修）

研修名	対象者	テーマ・内　　容	講　師	実施時期	会場
内容別 研修	全職員 参加者数 13 名	「介護技術研修②（日中)」 排泄、更衣介助についての講義と演習	安藤翔　氏 （あきば） 寺田潤　氏 （星谷学園）	10 月 23 日 （金） 17:30～19:30	あきば
	全職員 参加者数 13 名	「介護技術研修③（日中)」 食事介助についての講義と演習	安藤翔　氏 （あきば） 寺田潤　氏 （星谷学園）	11 月 13 日 （金） 17:30～19：00	あきば
	全職員 参加者数 **8 名**	「介護技術研修④（日中)」 清拭・入浴についての講義と演習	安藤翔　氏 （あきば） 唐戸仁　氏 （星谷学園）	12 月 10 日 （木） 17:30～18:30	あきば

その他の研修

・自閉症支援研修： ADS 者の支援について学ぶ。
・安全運転講習（ワゴン車）：高齢者及び初任者を対象に運転の適性・技能を確認する。
・安全運転講習（ペーパードライバー）：車の運転に慣れていない職員に対して、教習車での車両運転実習を中心に実施して運転技術向上を図る。
・新採用職員研修：2021 年 4 月採用職員の採用前研修

(2) 人権委員会

2019 年「あおぞらプランⅢ」に更新されたことから、プランに合わせ、人権擁護チェックシートの一部を更新している。今年度の人権擁護チェックについては、更新したものを使用し、法人全職員を対象に 12 月に実施している。

法人の身体拘束マニュアル作成を行い、各事業所の現状に合わせた内容となるよう、話し合いを重ね、マニュアルを完成させている。

法人全体の人権研修については、新型コロナウィルス感染防止の観点から、実施できていない。

(3) 採用チーム

今年度はリクナビからマイナビへ新卒求人媒体を変更し心機一転を図るも、コロナにより説明会の実施方法も対面からＷＥＢへ変更し、職員の母校への採用活動や

合同説明会への参加も思うよう出来ず、チームの活動が大きく変化した一年となった。
それでも、委員一同力を合わせて求人媒体の内容を充実させ、数少ない説明会参加学生へ手厚く対応が出来たことが多くの採用に繋がったと思われる。

(4) 定着支援チーム

新採用職員７名を対象に定着率を高めるための取り組みとして、以下の内容で研修及び振り返りを行った。
その他、「みんなでスポーツ＆リフレッシュ」や「１年間お疲れ様でした！新人研修の卒業式」等の内容も予定したが、コロナ感染予防対策として残念ながら実施を見送った。

実施日	内容	意図
7/22(水)	星谷会のスタートを同期の仲間と振り返る	・同期の仲間作り ・悩み・戸惑いなどを聞く
9/23(水)	ビジネスマナー入門	・電話マナーや接客スキルの習得
12/23(水)	利用者さんとの接し方（ＤＶＤ鑑賞）	・支援技術の習得

(5) リスク管理委員会

感染症対策のため、委員会開催は５回のみであった。今年度より報告書作成は記録ソフトを利用した。利用者死亡事故(レベル５)が発生し、事故調査委員会が設置された。

事故報告件数　：**245 件**（前年度比△12 件）

ひやりはっと件数：**331 件**（前年度比△66 件）　　(　)内は前年度数

内容	事故件数	ひやり件数	内容	事故件数	ひやり件数
転倒・怪我	83(89)	89(73)	所在不明	5(6)	7(21)
服薬	19(34)	30(46)	金銭	2(4)	2(2)
器物破損	24(23)	12(11)	誤食・異食	2 (3)	17(25)
車両	15(23)	3 (2)	紛失	5(3)	21(55)
他傷	55(19)	24(43)	衛生・環境	2 (1)	17(19)
確認・連絡	13(16)	47(33)	誤嚥	0(0)	3(2)
不適切対応	1(7)	7(13)	その他	15(22)	34(77)
個人情報	4(7)	9(5)	計	245(257)	331(397)

※県・市への報告事故：4 件(骨折 3、死亡 1)　※労災事故 6 件

事故報告レベル

レベル１	レベル２	レベル３	レベル４	レベル５
145 (147)	76 (97)	18 (16)	5 (2)	1 (0)

(6) 防災委員会

法人防災委員会を５回開催し法人防災マニュアルについて検討した。10 月 1 日には法人合同防災訓練を実施し、本部での情報集約や広域避難場所までの避難訓練を実施した. 防犯訓練について検討した。

(7) 広報委員会

法人広報誌「カシオペア」を発行した。また、法人ホームページの更新等、管理運用をした。

(8) 海老名市要望書

2021 年 7 月に法人から海老名市長あて次の 5 点について要望書を提出。12 月に要望事項について継続協議をする回答を得た。

1．少子高齢化に向けた人材確保・育成について（新規要望）
2．　障がい児相談支援体制の推進（新規要望）
3．指定管理事業における事業運営について（継続要望）
4．海老名市における地域生活支援等拠点事業の推進について（継続要望）
5．地域ニーズの把握について（継続要望）

6．理事会・評議員会開催状況

理事会

回	実施日	議　　案
第 139 回 理事会 ※書面決議	5 月 28 日	第 1 号議案　2019 年度事業報告について 第 2 号議案　2019 年度決算報告及び監事監査報告について 第 3 号議案　福祉充実計画について 第 4 号議案　評議員選任・解任委員の交代及び評議員選任・解任委員会の開催について 第 5 号議案　評議員の交代について 第 6 号議案　定時評議員会の開催について 主な報告事項 (1) 理事長及び執行理事の業務報告
第 140 回 理事会	10 月 26 日	第 1 号議案　経理規程の一部改正について 第 2 号議案　2020 年度第一次補正予算について 第 3 号議案　評議員会の開催について 主な報告事項 (1) 新グループホームについて (2) ステップ事業の継承について (3) 法人のコロナ対策について (4) 理事長及び執行理事の業務報告
第 141 回 理事会	3 月 15 日	第 1 号議案　2020 年度第二次補正予算について 第 2 号議案　2021 年度事業計画について 第 3 号議案　2021 年度当初予算について 第 4 号議案　規程改定について 第 5 号議案　監査結果及び改善報告について 第 6 号議案　NPO 法人ステップ事業譲渡計画及び覚書について 第 7 号議案　評議員会に開催について 主な報告事項 (1) 労基署是正勧告について (2) 星谷学園利用者の死亡事故について (3) 職員表彰指針の創設 (4) 新型コロナ感染症対策について (5) 理事長及び執行理事の業務報告

評議員会

回	実施日	議　　案
第 72 回 評議員会 ※書面決議	6 月 17 日	主な報告事項 （1）評議員の交代について （2）2019 年度事業報告について 議案 第 1 号議案　　2019 年度決算報告及び監事監査報告について 第 2 号議案　　福祉充実計画について
第 73 回 評議員会	11 月 16 日	主な報告事項 （1）法人のコロナ対策及び影響について （2）新グループホームについて （3）ステップの事業継承について （4）指導監査・実地指導の報告 議案 第 1 号議案 2020 年度第一次補正予算について
第 74 回 評議員会	3 月 22 日	主な報告事項 （1）監査結果及び改善報告について （2）労基署是正勧告について （3）星谷学園利用者の死亡事故について （4）新型コロナ感染症対策について （5）次期理事及び評議員の改選について 議案 第 1 号議案　　2020 年度第二次補正予算について 第 2 号議案　　2021 年度事業計画について 第 3 号議案　　2021 年度当初予算について 第 4 号議案　　NPO 法人ステップ事業譲渡計画及び覚書について

運営協議会

回	実施日	議　　案
第 3 回 運営協議会 ※書面開催	11 月 16 日	議題 （1）2019 年度事業報告及び決算報告 （2）2020 年度事業の状況 （3）2020 年度補正予算について （4）地域貢献事業について

２０２０年度　星谷学園・星谷デイさくら事業報告

１．重点課題の取組み状況

(1) 支援体制の見直し

・新型コロナウィルス感染症予防「三つの密を防ぐ」対策として、日中の活動は、入所利用者と通所利用者の活動場所を分離した。そのため当初予定してた支援体制の見直しは実施できなかった。

(2) 人財育成

・ケース検討については、職員会議等の機会に随時実施した。

・学園内の介護技術研修・法人内外の研修が新型コロナウィルス感染症予防策により中止となる。

(3) 意思決定支援に基づいた個別支援計画の作成・アセスメント力を高める

・利用者の意思決定を支援した、計画の作成に努めた。

・個別支援計画のモニタリング会議は年度２回開催した。

・コロナ禍において効果的な「ニコリほっと」報告の取り組みはほぼ実行できなかった。

(4) 強度行動障害者支援の継続

・支援者間で支援の統一ができるよう支援手順書を標準化した。また、記録をもとに手順書の定期的な見直しを行うように努めた。

(5) 建物設備の対応

・施設内の故障個所の修繕を随時実施した。

(6) 給食会議の充実

・給食会議のメンバー選定等の開始に向けた準備を実施した。次年度から定期開催予定。

２．施設入所支援の実績

(1) 入所利用者の状況（２０２０年度末現在）

入所　入退所状況

	男	女	入退所前後の状況
前年度末利用契約者数	21 人	19 人	
2020 年度新規利用契約者数	0 人	0 人	
2020 年度退所利用者数	1 人	0 人	窒息により逝去
20020 年度末契約利用者数	20 人	19 人	

入所　利用状況

年間延利用者数	13,930 人	1 日の平均利用者数	38.1 人	年間利用率	95.1%

入所　年齢構成　　平均年齢 54 歳（最高 78 歳）

20～29	19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 以上
0	0	0	1	13	15	4	6

入所　障害等級別状況

A1	A2	B1	B2	身障手帳
21	13	4	0	11

入所　障害支援区分

1	2	3	4	5	6	平均
0	0	0	0	14	25	5.6

入所　診断名（延人数）

自閉症･自閉傾向	ダウン症	知的障がい	精神障がい	身体障がい
9	4	40	6	11

(2)短期入所（宿泊）利用状況　　（　）内は前年度比

契約利用者数	実利用者数	年間利用延宿泊日数	利用率
77 人	11 人	194 日 (-841 日)	13.2%（↓）

(3)日中一時利用状況　　（　）内は前年度比

契約利用者数	実利用者数	年間利用延日数	利用率
34 人	6 人	182 日 (－464 日)	12.4%（↓）

＊新型コロナ感染予防のため、短期、日中一時の受け入れ制限を実施。利用は星谷学園およびデイさくら利用者に限定した（その他緊急受け入れ 2 件）

３．生活介護の実績

(1)利用者の状況（星谷学園・星谷デイさくら）

入退所状況（入所・通所）

	星谷学園		星谷デイさくら		備考
	男	女	男	女	
前年度末利用契約者数	29 人	24 人	12 人	3 人	
2019 年度新規利用契約者数	0 人	0 人	0 人	0 人	
2019 年度退所利用者数	1 人	0 人	0 人	0 人	
2019 年度末契約利用者数	28 人	24 人	12 人	3 人	

通所利用者　年齢構成　　平均年齢 44 歳

	19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 以上
学園（13）	0	1	3	5	3	0	1
さく（15）	0	2	2	9	1	1	0

通所利用者　障害等級別状況

判定	A1	A2	B1	B2	身障手帳
学園	9	3	1	0	4
さくら	3	１０	2	0	3

通所　障害支援区分

区分	1	2	3	4	5	6	平均
学園（21）	0	0	0	2	5	6	5.3
さく（11）	0	0	0	1	4	１０	5.6

(2) 日中活動利用状況（入所・通所）

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
学園提供日		22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
学園	利用者	53	53	53	53	53	53	53	53	53	52	52	52	(52.7)
	延数	1,112	1,118	1,138	1,168	1,097	1,111	1,176	1,098	1,122	1,107	991	1,168	13,406
さくら提供日		21	18	22	22	17	21	23	20	21	19	18	23	245
さくら	利用者	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	(15)
	延数	260	241	288	276	218	265	301	248	265	232	236	297	3127

(3) 日中活動内容

2020 年度末現在

単位	グループ名	入所利用者	通所利用者	主な作業内容
星谷学園生活介護	あさがお	男 3 名　女 3 名	男 8 名　女 5 名	アルミはがし、繊維ほぐし、タオルたたみ、刺しゅう、運動
	レインボー	男 13 名　女 6 名	男 0 名　女 0 名	ｱﾙﾐはがし、繊維ほぐし、タオルたたみ、缶つぶし、エコキャップ、散歩
	マンボウ	男 4 名　女 10 名	男 0 名　女 0 名	アルミはがし、繊維ほぐし、ﾀｵﾙたたみ、ししゅう、DVD ｹｰｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ、散歩
星谷デイさくら	さくら	男 0 名　女 0 名	男 12 名　女 3 名	ｱﾙﾐはがし、繊維ほぐし、ﾀｵﾙたたみ、匂い袋、創作活動、散歩
他事業所生活介護利用者		女 1 名（再掲）		かっぱ堂

(4) 行　　事

星谷まつり	新型コロナウィルス感染症予防策として、学園関係者だけで実施。

(5) 作業収益

収入額

項目	金額
小計①	122,053
繰越金②	155
利息③	0
収入総額①+②+③	122,208

給額

項目	金額	前年度比
給総額	120,910	−138,300
替手数料	660	
期繰越額	638	
人当たりの分配金（（満額給者）	1,810	−2,080

(6) 通所方法

施設送迎	家族・外部サービス	自力（徒歩）	計
20 人	7 人	1 人	28 人

４．研　修（外部）

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、外部研修の多くが中止となり参加できなかった。

５．給　食

給食は業務委託により提供しており、「郷土料理食」などの特別食を増やした食事提供に努めた。また新型コロナウィルスによる影響から密を避けた食事提供となり、配膳車や衛生用品などの導入や入れ替えを行い、以前より衛生面への配慮がされた給食提供を行えるようになった。

利用者の食事形態、トロミ剤や補助食品も見直し、「食べやすさ」を心掛けている。

今年度も重点目標として「給食会議の定期開催」が設定されたが、今回も給食委員会自体が定期的に行えず、達成とは言えない状況であった。「食事内容の充実」という課題解決に向けてまずは定期開催を行っていく。

６．健康管理

日々の心身の健康状態の把握、服薬状況の確認、医師やその他の専門家との相談、健康・給食委員会による情報提供などにより適正を期した。新型コロナ感染対策のため、代理受診

等の対応を増やしている。

学園をあげて新型コロナウイルスの予防に取組んだこともあり、新型コロナおよびインフルエンザの発症者はいなかった。

けが・入院等については、十二指腸潰瘍（ピロリ菌）により 1 週間入院した方がいた。

またリウマチ治療については、施設内での看護師による皮下注射を継続して行っている。

定期検診等の実施回数

内科検診	歯科検診	健康診断	体重測定	予防接種	往診歯科
10 回	1 回	1 回	12 回	2 回	20 回

＊内科検診については電話でのリモート往診を含む

医務室活動状況（利用者診療状況）

	内科	精神科	外科	整外	歯科	眼科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器	その他	
利用者通院延回数	224	305	0	13	355	1	15	272	2	15	1202 (↓)

※薬の処方のみの通院、園内処置を含む　※歯科の園内処置は往診歯科受診者　内科は往診・Tel相談含む

入院の状況

利用者	入院期間	入院日数	入院理由
A	令和 2 年 12 月 12 日～令和 2 年 12 月 19 日	6 日	十二指腸潰瘍

※入院日数は入退院日を除く

7．衛生管理

衛生管理については、清掃パート職員を中心に、園舎内の清潔に努めた。また、新型コロナウイルス対策として次亜塩素水や界面活性剤を使用しの日常的に生活環境のふき取り消毒を行った。その結果、今年度は感染症の発生を防ぐことができた。

日々の洗濯物は利用者や職員が行い、洗濯物たたみはボランティア（週日午前中）に依頼した。美容・理容については、施設内で美容師による理髪を低料金で実施した他、利用者の希望により地域の美容院を利用した。(緊急事態宣言中は外部者の立入りを制限)

8．防災対策

地震等の災害に備え今年度は、避難訓練とは別に発電機等災害備品の取り扱いについて、職員への周知徹底を目的に複数回訓練を実施していった。避難訓練に関しては新型コロナ感染予防のため回数を減らし実施している。

避難訓練

実　施　日	項　　目	内　　容
6 月 28 日	休日夜間避難訓練	地震想定（休日日中）
8 月 28 日	避難訓練	風水害想定（平日日中）
10 月 2 日	法人合同避難訓練	地震想定（平日日中）
12 月 23 日	避難訓練	不審者対応（平日日中）

防災訓練

実　施　日	項　　目	参加職員数
5 月	防災倉庫の整理、防災備品の在庫確認	5 名
11 月 20 日	施設内設備場所、機械操作の操作方法確認	30 名

9．オンブズパーソン相談状況

毎月 2 名のオンブズパーソンが来園し利用者からの相談を受けた。施設側への要望は 0

件、傾聴が主となっている。緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置発令時はオンブズマンの訪問を制限している

オンブズパーソン活動実績

訪問日	オンブズパーソン	相談者	要望書件数
6 日	延べ 8 人	延 78 人（−30）	0 件(±0)

相談内容：人間関係 19 件　職員 13 件　食事 20 件　仕事・作業 22 件　その他 78 件

１０．危機管理等

重大事故として 12 月 12 日（土）に食事を喉に詰まらせ窒息死する死亡事故が発生した。関係機関に連絡すると共に、支援状況についてのアンケート調査を実施の上、各会議で再発防止に向けた対策を検討した。また、法人の事故調査委員会の立ち上げを受け、調査結果を基に対策を再検討する予定である。県への重大事故報告事項は上記 1 件であった。
ひやりはっと・事故報告について、部署毎、運営会議、全体会議にて、定期的に検討し周知した。

１１．苦情・要望について

目薬の管理状況について苦情を受け付け対応している。苦情解決の仕組みとして取り扱ったものは 1 件のみであったが、要望等は日常的に支援員を通じて家族から上がっているため、ご本人や家族の意向に答えられるよう努めた。

２０２０年度　計画相談支援事業所ほしや事業報告

１．　重点目標への取り組み

(1) 星谷学園入所利用者のサービス等利用計画作成
2 名の方をセルフプランから相談ほしやでの作成に切り替えている。

(2) 相談支援員の育成
コロナ禍のため、研修等への参加は見合わせたこともあり、具体的なスキルアップの機会を設けることは出来なかった。次年度に関しても同様の情況であるため課題として残った。

２．契約者数および計画作成数

契約者数

	契約者
2020 年度末	33

計画作成数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
サービス等利用計画書作成数	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	4	0	１０
モニタリング作成数	3	1	2	4	3	5	3	2	2	2	2	8	３５

2020 年度　あまいろ事業報告

１．重点課題の取り組み状況

(1) 自閉症支援の質の向上

コロナウィルス感染症の流行により、外部講師による研修及びケース会議を予定通り開催することができなかった。事業所内で日々振り返りは行っていたが、支援を再考するには、り専門性の高いスキルを持った講師にアドバイスをもらう機会や外部研修への参加が必要だった。

利用者増員については新規に 3 名が利用を開始した。

(2) 記録の効率化と活用

行動の要因を探るため、期間を決めて記録を取り、それを日課の見直しに活用した。

記録ソフトについては、効率化を図ることはできなかった。

２．利用状況

入退所状況

	男	女	入退所前後の状況
前年度末利用契約者数	6 人	4 人	
2020 年度新規利用契約者数	3 人	0 人	支援学校卒２・入所施設退所１
2020 年度退所利用者数	0 人	0 人	
2020 年度末契約利用者数	9 人	4 人	

月別利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
開所日	22	19	23	22	17	21	23	20	21	20	19	24	251
契約者数	10	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	
延べ利用数	156	149	192	199	151	182	207	185	205	191	176	240	2233

※延べ利用者数　前年比 408 増

送迎利用状況

事業所送迎	家族送迎	他サービス利用	計
6 名	4 名	3 名	13 名

年齢

年齢	20 歳未満	20～29 歳	30～39 歳	計
男性	2 名	6 名	1 名	9 名
女性	0 名	3 名	1 名	4 名

障害等級別状況

A1	A2	B1
6	5	2

障害支援区分　（重度障害支援加算対象者　10 名）

区分４	区分５	区分６	計
1 名	5 名	7 名	13 名

障害

自閉症	その他	計
12 名	1 名	13 名

３．活動内容

作業収入

項目	金額
タオル	112,463 円
ちらし	10,078 円
アルミはがし	300 円
アラミド	1,000 円
アルミ缶	2,750 円
除草	54,266 円
収入計	180,857 円

工賃支払い 2 回(4 月・10 月)　1 日当たり 80 円　全日通所者 20,320 円(年間)

４．給食

利用者の偏食に配慮した献立作りに努めた。食数が増え、食材発注の仕方や一人での給食作りに再考が必要な時期となってきている。

５．健康管理

看護師により体重測定と血圧測定を毎月実施した。嘱託医は年２回の訪問となった。健診結果についての助言と、インフルエンザ予防接種を実施した。

６．防災

避難訓練を 3 回実施した。

避難訓練実施日	内容
8 月 28 日	避難訓練（水害想定）
10 月 1 日	法人合同避難訓練(地震想定)　２次避難所へ一部徒歩避難
12 月 2 日	避難訓練（火事想定）

７．苦情　なし

８．研修（外部）

新型コロナウィルス感染予防のため、外部研修への参加機会は少なかった。

日程	研修名	研修主催	参加者
7/30	コロナウィルス感染症対策研修	神奈川県	赤塚
12/16	コロナウィルス感染症対策ＢＣＰセミナー(ウエブ)	株）ＪＩＣ	赤塚

９．今後の課題

（１）自閉症支援の質の向上

・支援の核となる価値観の共有。

・要配慮行動に対する支援プロセスの標準化。

・利用者本人を見る力をつける。

（２）安全への備え

・災害～備蓄品の整備・使用方法の周知。

・事故～緊急時対応力向上を目指した訓練実施。

・リスク管理～発生が複数ある「事故・ひやりはっと」事案を減らす取り組み。

（３）利用者増員

・新規利用者増に向けて広報活動を行う。

２０２０年度　地域活動支援センター結夢事業報告

１．重点課題の取り組み状況

(1) 利用者のニーズに合わせた活動プログラムの充実

地域活動支援センター（フリースペース）の新規登録者は 25 名であった。利用者の顔触れが変わる中でも利用者ニーズを探る機会を定期的に設け企画、運営に努めた。また、フリースペース開所時間についても時期により、1，2 時間の開所延長による利用充実に努めた。他事業との交流機会は感染予防対策として企画を見送った。

(2) 障がい福祉サービスを超えた他分野との連携強化

サービス対象者の高齢化、重度化を踏まえ、医療制度の理解、知識、経験の積み重ねに向け関係機関からの情報収集や情報共有の場へ、参加し連携に努めた。

(3) 情報発信機能の充実

新規、既存のサービス事業所の情報の集約、整理、掲示をしながら、情報発信を行い、適切なサービス開始や継続につながるよう努めた。

(4) 自立支援協議会の充実による地域の体制作り

市や関係機関との協働を通して地域体制作りの継続に努めたが、新型コロナウィルス感染拡大防止もあり、協議会各チーム活動なども制限される年となった。地域生活支援拠点等整備事業についても市との協議継続を図っている。

２．実　績

（１）地域活動支援センター事業

①登録者数（2021 年 3 月 31 日現在）　（前年度比較）

精神	知的	身体	高次脳	発達	重複	その他	計
14１(+14)	39（+10)	8(+１)	4(±0)	6(±0)	3(±0)	0	201(+25)

＊障がい名が明らかでない人を「その他」で分類

②登録者の状況

所属なし	通所	就労	学生（通信）	計
136	48	17	0	201

＊通所先と契約しているが、通えていない場合は、「所属なし」に含む

③ゆうむスペース利用状況

実施日数：231 日　延べ利用者数：1814 人　　1 日平均：7.85 人

（前年度比較 234 日　　1513 人　　6.46 人）

精神	知的	身体	高次脳	発達	重複	難病	その他	計
1205	550	11	7	35	6	0	0	1814

④活動プログラム実施状況 実施回数：120 回　延べ利用者数：586 人（1 回平均：4.88 人）

（前年度比較 125 回　　604 人　　4.83 人）

プログラム	実施回数	参加延べ人数	プログラム	実施回数	参加延べ人数
寺子屋	24	108	みんなでランチ	9	57
パソコンチャレンジ	13	24	みんなで晩御飯	4	19
満福亭（生活教室）	22	131	季節のイベント	5	36
みんなとバースデー	4	23	ゆうむシアター	10	68
ミーティング	12	34	調理	17	86
:			計	120	586

⑤地域交流支援事業実施状況

障がい者等が、地域社会の一員として、積極的に地域との交流を行い障がい理解の促進を図る事業

＊新型コロナウィルス拡大防止のため、実施せず。

⑥地域拠点事業実施状況

地域の拠点とし広く門戸を開き、障害の有無に関わらず（総合福祉法の対象外でも支援が必要と認められる者）受け入れを行なう事業

＊新型コロナウィルス拡大防止のため、実施せず。

⑦制度のはざま対応事業実施状況

発達障がい者、高次脳機能障がい者等の相談支援や交流促進を図る事業

発達障がい	18 人	相談：延べ 91 件	地活：延べ 35 回
高次脳機能障がい	12 人	相談：延べ 201 件	地活：延べ 7 回

（２）相談支援事業の実績

①相談状況（前年度比較）

相談状況	実相談者数	相談件数（延べ)	マネジメント	ケア会議
件　　数	344 人（＋14）	1607（－394）	2320（+89）	67（-13）

②月別状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
相談件数	88	83	164	160	166	117	146	120	140	112	123	188	1607
マネジメント等	112	89	200	226	180	171	241	228	194	249	179	251	2320
ケア会議	4	2	9	4	5	6	7	6	5	6	6	7	67
計	204	174	373	390	351	294	394	354	339	367	308	446	3994

③相談内容

相談内容	制度・サービス利用	障がいの理解	医療	家族関係人間関係	家計・経済	不安の解消	住環境	教育
件　　数	1236	4	111	52	3	101	14	0

就労	権利擁護	他機関やサービスへの不満	その他	合計
14	1	13	58	1607

④相談方法

方法	電話	訪問	面接	同行	その他	計
件数	680	407	211	35	274	1607

⑤障がい種別

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	その他	計
1834	1012	201	91	221	582	47	6	3994

⑥サービス利用計画作成の状況（2021 年 3 月 31 日現在）（前年度比較）

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	計
101	35	8	5	3	28	0	180（＋19）

２０２０年度　相談支援事業所結夢＋事業報告

１．重点課題の取り組み状況

(1) 社会資源の整理、インフォーマルサービスの活用

生活実態、ニーズに即した社会資源について情報を整理すると共に地域のインフォーマルサービスの活用も意識したサービス等利用計画への反映に努めた。

(2) 相談支援技術の向上

相談支援事業所連絡会でのグループスーパービジョン参加や事業所内でのケース検討の機会を通して相談員の相談支援技術の向上に努めた。

(3) サービス等利用計画の充実、関係機関や他分野との連携強化

サービス等利用計画の達成率の向上、相談内容への迅速な対応に向け、他相談支援事業所や他機関との情報共有の場へ参加し、連携に努めた。

２．実　績

①相談状況（前年度比較）

相談状況	実相談者数	相談件数（延べ）	マネジメント	ケア会議
件　　数	221（＋38）	1645（＋248）	3127（＋429）	129（＋17）

②月別状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	140	92	185	148	116	182	145	133	145	104	100	155	1645
マネジメント等	227	184	269	291	200	323	294	214	282	303	228	312	3127
ケア会議	5	1	16	18	12	11	22	9	12	1	10	12	129
計	372	277	470	457	328	516	461	356	439	408	338	479	4901

③相談内容

相談内容	制度・サービス利用	障がいの理解	医療	家族関係人間関係	家計・経済	不安の解消	住環境	教育
件　　数	1281	2	58	54	4	106	44	0

就労	権利擁護	他機関やサービスへの不満	その他	合計
14	3	42	37	1645

④相談方法

方法	電話	訪問	面接	同行	その他	計
件数	901	398	164	41	141	1645

⑤障がい種別

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	その他	計
3038	27	3	677	452	680	0	24	4901

⑥サービス利用計画作成の状況（2021年3月31日現在）（前年度比較）

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	計
142	2	0	13	7	18	0	182（＋17）

２０２０年度ＳＥＬＰビナ事業報告

１．重点目標に対する課題と評価

【利用者の増加に向けた取り組み】

利用者増加の取り組みについては、就労移行利用者が 4 月に 4 名、就労継続支援 B 型利用者が 7 月に 1 名新規で入所している。就労移行の新規利用者については、4 名中 3 名が当事業所で実習を行った高等部三年生が卒業後に入所したケースであり、実習中の印象から当事業所を選んでいただけたとの事であった。

学校関係では、コロナ禍の状況ではあったが、学校からの見学者を積極的に受け入れた。また、座間養護学校、えびな支援学校、生蘭専修高等学校との情報共有は密に取ることが出来ている。

その他、相談支援事業所と連携を図り、より利用者個人に合わせた事業所として、利用の対象となることがあり、1 名の B 型利用に繋がった。

【就労継続支援Ｂ型】

(1) 工賃向上の取り組み

工賃向上の取り組みとしては、海老名市社会福祉協議会からの共同受注作業を積極的に受けている。また、ロザフィーペーパーの裁断や段ボール作業など、新規作業にも取り組んだ。

長年継続していた製パン・製菓については、今年度も海老名市立保育園のおやつパンや、店舗の運営などに取り組んで来たが、作業に携われる利用者の減少などから、今年度末にて、作業自体を中止している。

社会福祉法人全国社会福祉協議会が実施する「工賃向上プロジェクト」については、WEB によるコンサルテーションを 1 回受けているが、以降はコロナ禍の影響から頓挫している状況であった。

(2) 地元企業との関係強化

受注作業については、市内や近隣市にある 7 企業から仕事を請け負っており、コロナ禍の中、優先的に仕事を頂けるなど、日頃の関係性が良好であったことが功を奏したようである。

(3) 作業環境の整備

作業環境については、利用者個々の状態に合わせて、活動場所を変えるなどの工夫を行った。また、複数の作業を同時進行で行うため、効率よく作業が進むよう、作業室内の導線を考えて配置した。

【就労移行支援】

(1) 就労へ向けた支援の充実

就労者については、6 月にＢ型から 1 名就労したが、今年度、就労移行からの就労者はいなかった。現状としては、2019 年度に 5 名就労者しており、2020 年度については、利用 1 年目の方が 4 名、一度就労して退職した方が 2 名と直ぐに就労に繋がる方がいなかったことが原因であった。

次年度については、社会性や体力が向上し、就労に向けて準備が整いつつある方も複数いる状況である。

(2) 社会性と協調性の強化

就労に向けたビジネスマナーなどの講座については、月２回、定期的に開催している。但し、月によっては、新型コロナウィルスの影響で自粛される利用者の方が多いなどの理由で、未開催の月もあった。

講座開催時には、皆熱心に受講されており、一定の効果があると感じている。

【就労定着支援】

(1) 就労先企業との連携強化

今年度については、新型コロナウィルス感染防止の観点から、企業側から訪問による支援の中止を求められる期間があった。また、課題についても、新型コロナウィルスの影響による仕事量の減少や、時短勤務、マスク着用の徹底など、コロナ関係の課題や相談が多く見られる状況であった。

(2) 継続した就労への支援

新型コロナウィルスの感染状況により、勤務時間や勤務日が減少する企業が何社かあったが、定期的に企業、利用者、家族と連絡を取り合いながら支援を行った。

2019 年 11 月に就労された方が、企業の風土と合わないとの事で、企業側と複数回、話し合いを持ち、企業側も努力して頂けたが、7 月に退職されている。

(3) 関係機関との連携

関係機関については、ハローワーク、就労・生活支援センター、相談支援事業所等と連携を図っており、支援期間を終了し、課題がある方については、就労・生活支援センターに引き継いでいる。

２．利用状況

月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
就労移行	在籍者数	6	6	6	6	7	7	8	8	8	8	7	7	平均7.0
	延べ人数	103	103	129	122	110	136	152	131	79	119	105	128	1,417
就労継続	在籍者数	32	32	31	32	32	32	32	32	32	32	32	32	平均31.9
支援Ｂ型	延べ人数	571	523	641	643	499	600	671	588	618	563	550	704	7,171
就労定着	在籍者数	8	10	10	10	8	8	7	7	8	8	7	7	平均8.1
	月実績数	7	10	10	9	8	7	7	7	8	7	7	7	94

※年間活動日=242 日　平均利用率=移行 98.0%、B 型 88.7%　一日平均利用者数=34.8 人（就労定着含まず）

入退所の状況

【就労移行】

年度当初在籍者数	男	女	備考
	4 人	2 人	
2020 年度入所利用者数	2 人	0 人	2020 年 8 月に 1 名、10 月に 1 名
2020 年度退所利用者数	2 人	0 人	2020 年 10 月末に男性 1 名移行期間終了 2021 年 1 月末に男性 1 名就労
今年度末在籍者数	4 人	2 人	

【就労継続Ｂ型】

年度当初在籍者数	男	女	備考
	18 人	14 人	
2020 年度入所利用者数	1 人	0 人	2020 年 7 月に男性 1 名入所
2020 年度退所利用者数	1 人	0 人	

			2020 年 5 月末に男性 1 名就労
今年度末在籍者数	18 人	14 人	

年度当初平均年齢・年齢構成

		19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60 以上	平均年齢
就労移行	男性	1	3	0	0	0	0	
	女性	2	0	0	0	0	0	20.8
就労B型	男性	0	4	7	3	3	1	
	女性	0	4	6	3	1	0	37.7

障害等級別状況

就労移行				就労継続Ｂ型			
A1	A2	Ｂ１	B2	A1	A2	B1	B2
0	1	1	4	4	10	12	6

障害支援区分

区分	1	2	3	4	5	6	未認定
就労移行	0	0	2	0	1	0	3
就労継続Ｂ	0	2	7	11	4	0	8

３．支援内容

(1) 作業活動

受注作業については、7 社（雑誌の袋詰め、ガス警報器説明書加工、エプロン・タオルたたみ、溶接材加工、ＤＶＤケースのクリーニング、水道メーターリサイクル、造花用（ロザフィ）紙材料の生産）の仕事を請け負った。

海老名市社会福祉協議会の共同受注作業にも積極的に取り組んでおり、東名高速道路高架下・海老名市総合福祉会館の除草作業や、チラシの配布、市役所で販売するバレンタインギフトの作製及び販売、名刺作成などを行っている。

製パン・製菓では、海老名市公立保育園用おやつパン、カフェへの食パン等を引き続き受注した。店舗「PANBEENA」については、ホットドックなどの新メニューを出しているが、新型コロナウィルスの感染状況もあり、店舗を閉めている期間や、開店日を週二日に限定するなどの営業となった。また、製パン・製菓については、携われる利用者の減少もあり、2020 年度末で中止している。

(2) 就労会計

(収入)

項目	金額
受託１（水道メーター）	1,847,763
受託２（大洋テクノ他）	8,773,006
製パン	2,387,133
PANBEENA	611,602
施設外受託事業＊	454,794
その他	20,000
収入合計	**14,094,298**

(支出)

項目	金額
給与支給(賞与含む)	9,855,174
仕入れ材料費	1,570,335
光熱水費	820,070
消耗品費	150,042
賃借料	486,000
その他経費	1,136,926
減価償却	75,751
支出合計	**14,094,298**

就労支援事業活動増減　+1,643,761 円

(3) 通所援助

送迎バス(マイクロバス)と送迎車（ワゴン車）を綾瀬市及び海老名市内に２台を走行させ利用者へ送迎サービスを実施した。

通所状況（延べ人数）

公共の電車・バス	送迎車	徒歩・自転車	家族送迎	その他
21	26	3	2	0

４．オンブズパーソン相談状況

今年度の活動については、新型コロナウィルス感染拡大の影響で、5 月～7 月、2 月～3 月にかけての活動は自粛となっている。その他の月については、実施しており、利用者の方々の人間関係や生活面等の相談を受けて頂いた。

５．給　食

昼食は、委託業者（株式会社ニチダン）との契約により提供されている。昨年度は、季節の行事が中止、または、縮小した形で開催したため、開所日の昼食提供以外、行事等での依頼はしていない。月１回のセレクトメニューについては、実施しており、利用者の皆さんの楽しみになっていた。

６．健康管理・衛生管理

利用者の健康管理については、利用者の日常的な変化、ご家庭との連絡帳のやりとり、てんかん発作時の電話連絡、作業中に発生した怪我への通院同行など、状況に合わせた対応に心掛けた。

利用者・職員について、健康診断を年１回実施し、利用者は嘱託医師による内科検診を年１回、健康診断時に行う内科検診１回を実施している。検診の結果及び嘱託医師の助言等は家庭へ連絡し通院等の対応を促している。また、インフルエンザの予防接種（任意）を実施した。

新型コロナウィルス感染防止対策として、利用者、職員出勤前、出勤時の検温と手洗い消毒を励行している。また、利用者退勤後には、館内、公用車の消毒を毎日行っている。

７．作業時の安全管理

作業においては、ハサミやカッターなどの道具について、利用者に適切な使用方法を伝えると共に、軍手の着用を促すなど安全に配慮した対応を行った。また、水道メーターや溶接棒など、重量のある物を扱う事を考慮し、安全靴、安全眼鏡などの防護器具着用を徹底し、安全に配慮した。

８．防災対策

防災については、海老名市の消防機関の指導により適正を期した。また、必要に応じて地震・火災に備えての訓練を実施した。

防災訓練実施状況

実施日	項　　目	内　　容	備　考
8 月 26 日	消火訓練・通報訓練・避難訓練	火災想定・風水害	
10 月 1 日	消火訓練・通報訓練・避難訓練	地震・火災想定	
3 月 26 日	消火訓練・通報訓練・避難訓練	地震・火災想定	

９．会計管理

会計管理については、星谷会経理規程、給与規程等にそって適正な会計処理に努めた。

１０．研　修

今年度は、新型コロナウィルスの影響により、各種研修が中止となっている。

実施日	研修内容	参加者
8 月 6 日	食品衛生責任者講習	白井
8 月 20 日	事務研修（WEB）	宇高
10 月 6 日	SELP 協工賃向上コンサルテーション（WEB）	白井、渡邉
10 月 30 日	事務研修（WEB）	宇高
11 月 13 日	法人介護研修	渡邉
11 月 27 日	事務研修幹事会（WEB）	宇高
12 月 10 日	法人介護研修	渡邉、大滝、五十嵐
12 月 24 日	安全運転管理者講習	白井

１１．地域との交流

「PANBEENA」店舗にて、販売を通じて地域住民との交流を図った。「PANBEENA」については、2020 年度末で製パン・製菓中止により、閉店となっている。また、地域のイベントについては、コロナ禍の影響から、開催中止が相次いでいる。

毎年、市内の複数中学校から受け入れていた、生徒の職業体験学習についても中止となっている。

2020 年度　海老名市障害者第一デイサービスセンター事業報告

（指定管理による運営　通称：レインボードリーム）

１．重点課題の取り組み状況

(1)支援の充実

・個人の状況に合わせた個別プログラムを提供した。身体活動ではダンスや歩行等を中心に取り組んだ。創作活動では毎月クラフトの日を設けた。また新規活動としてキーホルダー作りを始めている。新型コロナウィルス感染拡大防止の為外部講師を招いてのプログラムについては見合わせた。

・集団参加等が不得意な利用者に対しタブレットを使用しリモートにてミーティングや行事等に参加ができるよう取り組みを行った。発言や表現の機会が確保できるよう取り組んだ。

(2)利用者増加に向けた取り組み

・新型コロナウィルスの感染拡大防止の為、訪問や低学年層を対象とした体験利用者を受け入れての営業活動については見合わせた。支援学校高等部学生の進路検討の為の実習、福祉サービス利用の為の見学、実習については実習期間を短くし感染予防を図りながら受け入れを行った。

・新型コロナウィルス感染予防の為 5 月 11 日～30 日まで 1 日の利用人数を調整しながら営業をした。またコロナ対応で利用を控える利用者も数か月にわたりおり利用者の軽減が見られた。休日開所は新型コロナウィルス感染予防を図りながら実施した。サービス提供日を増やしサービス向上、利用人数増加を図った。

　利用日数の少ない利用者については個別プログラムの提案等行ったがコロナ禍の状況もあり定期的な利用につながらなかった。

(3)サービス向上・人材の育成

・チームによるケース検討・報告を定期的に実施した。支援における事業所内の基準共有化を図った。

・利用者情報等全体で共有するための事業所全体のスケジュールツールの見直しを行い誰でも簡易に活用できるよう取り組んだ。

・業務改善についての検討を行った。業務シェアや他者の業務の見える化については引き続き改善、実施をしていく。

・新採用職員についてはサポーター職員をつけるなどの取り組みを行った。

２．利用状況（2020 年度末現在）

　利用者の状況で 2020 年度 4 月当初、新規利用契約者はなく 38 名でスタートしている。11 月に生活介護で 1 名、1 月に就労継続支援Ｂ型で 1 名契約、2 月に介護保険施設利用の為に 1 名（就労継続支援Ｂ型）利用契約終了。2021 年 3 月末の利用契約者は生活介護 31 名、就労継続支援Ｂ型 8 名の 39 名となった。

　5 月時新型コロナウィルス感染拡大予防の為 1 日の利用者数を調整した縮小営業を行った。

(1) 月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	30	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	31	X:30
	延べ人数	478	422	563	545	408	510	531	512	528	477	478	594	6046
就労継続支援Ｂ型	在籍者数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9	9	8	X:8
	延べ人数	146	113	146	149	107	132	154	129	130	138	142	178	1664

年間平均利用率：79.41％　1 日平均利用者数　30 人（土曜余暇含む／バザー含まず）

(2) 利用者状況

年齢分布（2020 年度末）

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	合計
男性	0	7	5	3	3	1	0	19
女性	1	7	1	4	5	2	0	20

平均年齢

男性平均	34.1
女性平均	39.4

障害支援区分

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
人数	0	0	4	14	10	9

区分なし：2　生活介護平均支援区分：4.8　　就労継続支援Ｂ型平均支援区分：2.8

障害等級別状況

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２
人数	10	14	12	3

送迎サービス実績

延利用件数	11,261 人	前年度比＋70 人

３．活動内容

利用者が作業、活動を選択し決定しやすいよう様々な活動や作業を提供したが新型コロナウィルス感染拡大の為受注作業の受注量及び受注種は減少した。自主製品活動でもイベント等が中止となり食品加工販売の機会が激減した。

月 2 回のレクリエーション、日課で行う余暇等の活動では散歩、運動プログラム、ダンスの日の他、物づくりを主体で行う「クラフトの日」、通信カラオケ機器をリースし最新の楽曲が歌える「カラオケの日」は継続したが講師を招いての七宝活動やビナレッジ(交流館)へのガラス絵活動などについては感染予防の為回数が減った。

自治会活動では利用者の意見が活動や行事に反映できるよう継続し活動等の充実を図ったが日帰り外出、一泊旅行も感染防止の為中止とした。

地域との交流では社家小学校児童クラブとの交流、事業所合同で開催している「海老名この街で暮らそう」は中止とした。

(1)受託作業

ダンボールの貼り合わせ・組み立て、チラシ折り紙袋のシール止め、エコキャップ、チラシの袋入れ、水道メーターの解体、タオルの選別、タオルの配送、市内国分寺跡除草、綾瀬浄水場除草、東名高速道路の高架下除草など。

(2)自主製品・活動

食品加工、手芸、七宝画製作、クラフト、レクの日、ダンスの日、運動プログラム、ビナレ

ッジガラス絵活動、カラオケの日
(3)イベント
行事については3密を避け実施。土曜余暇活動（月1回)、季節のイベント（忘年会等）実施日帰り外出、一泊旅行などの外出を伴う行事は新型コロナウィルス感染予防の為中止。
(4)地域との連携等
施設内での自主製品や野菜の販売活動、食品加工品の市や保育園、地域障害者団体等からの受注、市内コミニティセンターからのエコキャップの搬入、実習者・ボランティア・見学者の受入れ、市内ビナレッジ（交流館）でのガラス絵活動、日中活動を通じて地域との関わりを図った。新型コロナウィルス感染拡大防止の為3デイサービスセンター主催の「えびな・この街でくらそう」、地域イベント(バザー)は中止となった。

４．作業会計

作業収益では受注作業の減少、イベント中止によるバザー販売、自主製品(食品)の減少により収益は減少した。

収入　（単位　円）

ＳＫパック	24,282	エコキャップ	3,344
ＡＳＵ	76,500	七宝画販売	13,000
ファブリッククリーナーズ	41,030	野菜販売	26,342
たすけ愛ゆずり愛	261,030	除草作業（中日本高速道路）	88,707
除草作業（綾瀬浄水場）	54,266	海老名市芸術プロジェクト	20,000
除草作業（国分寺跡）	468,763	正月フラワーアレンジメント	10,800
水道メーター	30,000	食品加工	640,904
合計			1,758,968

支出　（単位　円）

材料費	314,952	利用者賞与	876,359
利用者給与	563,700	金種指定手数料	3,888
合計			1,758,899

収入　（単位　円）	支出	次年度繰越
1,758,968	1,758,899	69

＜備考＞　□全体平均工賃（生活介護・就労継続支援Ｂ型）：3265／月　□就労継続支援Ｂ型：3557／月

５．健康管理

看護師は月2回出勤。月1回の体重測定、日々の健康観察、年4回の嘱託医検診の他、歯科検診、利用契約者を対象とした健康診断をそれぞれ年1回実施。嘱託医、看護師より健康状態や病気の予防等について助言を受けながら、必要に応じ適宜ご家庭や関係機関と連絡をとり健康管理に努めた。日中活動時においては服薬の支援、状況に応じ通院付き添いサービス、希望者を対象としたインフルエンザの予防接種を行った。

６．防災

「地震」「火災」「風水害」を想定した避難訓練を年6回実施。災害時の役割分担、動き

などの確認、利用者の状態に応じた避難方法を検討し緊急時に適切に対応できるよう努めた。消防設備については年２回の業者による法定点検を実施し消防署に報告。

７．職員研修

新型コロナウィル感染拡大防止の為外部研修及び集団での研修への参加を控えた。少人数で行われる星谷会主催の介護研修、リモートで行われた海老名市共同受注窓口主催の研修へは参加した。また事業所内では支援に関わる基礎研修や上級職員を対象としたパワーハラスメント研修を実施した。研修の機会は少なかった。支援上の課題については通常の職員会議の他、ケース報告会を設け支援の課題の共有化を図った。個々のケースについてチームを設け職員間で課題等の検討を行い、全体に周知確認し具体的な支援の取り組みが適宜行われるよう取り組んだ。

８．ボランティアの受け入れ状況

新型コロナウィルス感染予防の為ボランティアの受け入れについては見合わせた。

９．今後の課題

（１）個別支援の充実

・身体活動、作業、創作、生産活動、余暇等個別のニーズにより多く応じられるようプログラムを検討。
・利用者の表現の機会を増やす。

（２）利用者増加に向けた取り組み

・支援学校等の実習対象外の低学年児童・生徒にも事業所を知ってもらう機会を増やす。
・サービス提供日数を検討しサービス向上、利用人数増加を図る。

（３）サービス向上・人材の育成

・利用者情報等職員全体で情報共有しサービスを安定して提供できるようにする。
・職員の行う定型の業務について改善を図る。

２０２０年度海老名市障害者第二デイサービスセンター事業報告

（指定管理による運営　通称：かっぱ堂）

１．重点課題に対する取り組みと評価

(1) 利用者獲得のための取り組み

新卒利用者獲得の取り組みとして事業所見学会や説明会、イベント参加等、こちらからの情報発信等を計画していたが実施出来ず。別途取り組みとしてパンフレットの刷新、支援学校・養護学校在校生への積極的な見学受入れ・実習、学校との連絡・情報共有、実習生を受け入れる事業所としての環境・意識改革を行い、２０２１年度２年ぶりに支援学校・養護学校の卒業生２名と契約する事が出来た。

精神障がい者への取り組みとして、興味あることをプログラム化、コンサルタントやボランティアの導入は実施出来なかったが、障がい特性に応じた環境整備や個別支援に取り組み、年度途中で精神障がい者２名の契約をする事が出来た。

長期欠席者への取り組みとして、長期欠勤の方へ定期的な訪問支援や電話連絡を行い、本人のペースで午前・午後のみや短時間での出勤を送迎も含めて行い、利用して頂く機会が拡がった。

利用者サービスの向上を目的として祝日の活動日を増やした。

(2) 意思決定支援の取り組み

個別支援計画やモニタリング内容の際、ご本人同席を基本に分かりやすく納得して頂けるよう説明を行った。また月に１回、利用者さん全員のケースの振り返りを行い、職員の共通認識のもと個別支援計画に沿って支援が進められるようにした。

また定期的な面接・面談を確保する為、相談室を整備し、必要に応じていつでも相談が出来る環境を作った。

オンブズパーソンに今年度は６回来て頂き、利用者さんの相談を聞いて頂いた。

定期的に利用者自治会を実施し、行事等、意見を取り入れたり、尊重しながら行った。本人会等、より発展的な自治会活動は行えなかった。

地元の望地自治会に加入し、自治会活動はコロナ禍でなかったが、今後の地域交流・参加への足がかりが出来た。

生産活動以外の外部講師を入れる事は出来なかった。

(3) 自主製品のための取り組み

地域の方と共同で作る事を目的とし、「食と職、海老名笑顔化計画」という海老名市社会福祉協議会が中心となり企業から委託金を貰い、かっぱ堂の畑で地域高齢者ボランティアに野菜作りをしてもらい、かっぱ堂で収穫し、市内の子ども食堂に野菜を提供するプロジェクトを行った。今年度は土作りや野菜の植え付けで終わったが、次年度より収穫も定期的に行う。委託金を利用者さんの給与に当て、工賃アップに繋がった。

食品製造・菓子製造の許可を取り、大豆を加工した自主製品の販売を３回行った。

畑で採れた野菜や敷地内で採れた１５００個程の柿を無人販売で定期的に販売した。また大根を加工した切り干し大根の販売も行った。

カレンダー販売も販売方法や販路を工夫をし、目標を設定し、過去最高の売り上げとなった。また星谷会作品展が開催されなかったこともあり、作品を様々な障がい者のコンテストに積極的に応募した。

２．利用状況

(1) 月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	22	22	22	22	22	22	23	24	24	24	24	24	平均22.9
	延べ人数	350	287	380	358	292	348	421	382	375	324	353	435	4,305
就労継続	在籍者数	14	14	14	14	14	15	14	14	14	14	14	14	平均14.0
支援Ｂ型	延べ人数	188	140	180	167	138	167	179	165	151	128	121	159	1,883

※ 年間活動日＝252 日　1 日平均利用者数　24.5 人

4 月生活介護、9 月就労継続支援Ｂ型、11 月生活介護各 1 名契約　10 月就労継続支援Ｂ型→生活介護移行 1 名

(2) 利用者状況（2020 年度末現在）

年齢分布

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	合計
男性	0	8	4	5	8	0	0	25
女性	0	0	2	4	2	3	2	13

平均年齢　全平均：39.4 歳

男	39.4 歳
女	54.2 歳

障害手帳等級

A1	A2	B1	B2	身体 1 級	精神 2 級	なし	合計
3	10	11	3	2	7	2	38

障害支援区分

生活介護平均支援区分：4.7　　就労継続支援Ｂ型平均支援区分：3.0

なし	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	平均
5	2	9	5	12	5	3.7（なし除 4.3）

送迎サービス実績

延利用人数	9,586 人	前年度比-116 人

３.支援内容

利用者の自己決定・自己選択を尊重し、受注作業（タオルたたみ、チラシ折り等）・農園芸・散歩・室内運動プログラム（ダンス・ストレッチ）・水彩画・手芸・カラオケ（大手カラオケ機材をリース導入）・ゲーム・買い物等の活動、また例年行っている綾瀬浄水場と国分寺跡の除草作業、共同受注による落花生作りや海老名市役所の花植え等、利用者が活動を選択する形で毎日の活動に参加して頂いた。

また自主製品や新しい作業種も試行しながら適宜行った。

例年行っている一泊旅行、日帰り旅行、土曜余暇、かっぱ祭り、忘年会、餅つき、還暦・喜寿を祝う会等もコロナ禍を鑑みながら中止や内容変更をしながら行った。

４．作業会計

受注作業の減少及びバザーイベント等の中止により特に上半期は給与・賞与の支給額が前年度より減少したが、下半期は国分寺跡除草作業の増収及び「食と職、海老名笑顔化計画」の委託金等により支給額が増加した。

収支

収入		支出	
作業収入	¥1,377,820	給与	¥484,000
バザーイベント等収益	¥0	賞与	¥720,378
前年度繰越金	¥18	材料費・銀行手数料	¥173,444
収入合計	**¥1,377,838**	**支出合計**	**¥1,377,822**

（昨年度の収入合計は 1,204,376 円。次年度繰越金 16 円）

※生活介護対象者を含む全平均工賃 2,867 円

※バザー・イベントは今年度全て中止

５．健康管理・衛生管理

年 4 回の嘱託医検診、年１回の歯科検診、健康診断、インフルエンザ予防接種を実施した。また必要に応じて通院同行を行った。月２回の看護師巡回の際に血圧と体重の測定を行なった。その際、利用者の健康状態を伝え、アドバイスを受けた。

新型コロナウィルス対策として、手洗い・うがい、マスク着用・消毒を励行し予防に努めたが２０２１年１月、職員に陽性者が１名出て、閉所期間を設け、利用者・職員のＰＣＲ検査の実施及び所内・公用車の業者消毒を行った。

６．防　災

避難訓練（火災・風水害）、水消火器を使用した消火訓練、通報訓練等、事業所で行った。また消防署からの派遣が出来なかった為、事業所内で職員に対し心肺蘇生法・ＡＥＤ講習を行った。

７．職員研修

外部研修は殆ど行えず。その代替として事業所内の会議の際に、人権、権利擁護、意思決定支援、制度、障がい理解等の研修・研鑽を行った。

８.地域参加

地域清掃と称し、作業時間に近隣のゴミ拾いを月１回行った。

例年発注して頂いている大谷小学校の運動会での粗品も販売した。

９.ご家族との連携

今年度通常３ヵ月に１回行っている家族会は行えなかったが、日々連絡ノートや電話にてその日の様子や体調、活動内容等の情報共有を行った。

2020 年度　海老名市障害者支援センターあきば事業報告

（指定管理による委託運営）

１．重点目標の取り組み状況

(1) 新規事業所の充実と運営の安定化

・支援学校を卒業された２名の男性が生活介護で、他事業所を利用されていた 2 名の女性が実習を経て就労継続支援Ｂ型で契約され、生活介護 51 名就労継続支援 B 型 14 名でスタートとしている。生活介護で契約されていた男性利用者の容態が自宅にて急変され６/9 に逝去された。11 月末で他事業所利用の為、就労継続支援 B 型の契約者女性 1 名が契約解除となり、3 月に新規で 1 名の男性が就労継続支援 B 型で契約され 3 月末での契約者数は生活介護 50 名、就労継続支援Ｂ型 16 名となる。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、5/11 より日中活動のサービスを利用日数制限（3 日／週まで）によるサービス提供の実施と日中一時と短期入所を休止して、利用日数制限については 5 月末まで実施している。カフェ“はみんぐ”の営業については海老名市からの要請により３月から休止して、日中一時、短期入所については 7/1 より再開、カフェ“はみんぐ”は 7/6 より再開している。又 1/8 の緊急事態宣言発令により、短期入所と日中一時、カフェ“はみんぐ”を 3 月末まで休止している。

・カフェ“はみんぐ”の休止、新型コロナウイルス感染拡大の影響による受注作業等の受注減、バザー等の開催中止による減収の為、作業収入は約 237 万円/年間（昨年-225 万円）平均工賃支給額も前年度と比較して減額している。

・短期入所事業については、緊急的な対応が必要な短期入所については休日も営業したが平日の利用が主であった。休止を２回（約５ヶ月）実施した為、実績としては契約者数 80 名（昨年+3 名）、利用率 30%（昨年-25%）となった。日中一時支援事業については契約者数 32 名（昨年+4 名）、利用率 50.6%（-10.4%）休止の影響により利用率は下がっている。

・女性支援員の体調不良者が数名発生して女性利用者の短期入所の夜勤対応や入浴介助の対応が難しくなる状況があり 12 月より女性利用者の短期入所については利用制限を実施した。女性支援員の補充を行うが難航し、年度内の短期入所の通常利用が難しい状況となった。

(2) 個別支援の充実

利用者一人ひとりの障害、個性、趣向を尊重した日中活動の提供を行い事業所での活動に満足感、充実感を持っていいただけるよう努めた。利用者の状態に合わせて必要な対応を検討するためその都度、グループ会議等を実施して対応の検討を行った。

(3) 職員の資質の向上

法人の研修をはじめ、外部での研修への参加を促したが、コロナ禍の為中止になる研修会もあった。事業所の支援に必要な機能訓練や介護技術などの専門的な技術・知識の習得を目的とした事業所内研修を実施した。

(4) 人権意識の向上

人権チェックや人権研修等を実施し、常に人権擁護を意識しながら支援にあたるように努めた。

(5) サービス向上の取り組み

休日の半日開所を計 8 日実施した。平均利用者数は 31 人で収入の増収につながった。

又休日半日開所日に日中一時の利用可とした。しかし休日短期入所の通常受け入れを考慮すると休日の開所と併用実施するのは困難なので今後は休日短期入所の通常受け入れを優先していく事とする。

２．利用状況

(1) 月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	51	51	50	50	50	50	49	50	50	50	50	50	
	延べ人数	798	709	896	842	665	816	915	764	818	769	726	908	9626
就労継続支援Ｂ型	在籍者数	15	15	15	15	15	15	16	16	15	15	15	16	
	延べ人数	208	200	237	226	170	204	226	222	230	218	196	244	2581

年間平均利用率：73.3%（契約者）一日平均利用者数 49.5 人

(2)短期入所（宿泊）利用状況（2020 年 4 月～2021 年 3 月）

契約利用者数	年間利用延宿泊日数	利用率
80 名（昨年+3 名）	401 日（昨年-393）	30.0%（昨年-25.0%）

(3)日中一時利用状況（2020 年 4 月～2021 年 3 月）

契約利用者数	年間利用延日数	利用率	利用時間数
32 人（昨年+4 名）	125 日（昨年-21）	50.6%（昨年-10.4%）	446.8 時間

(4)利用者状況（2020 年度末現在）生活介護 50 名、就労継続支援 B 型 16 名

年齢分布

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	2	10	13	11	3	1	40
女性	0	10	7	4	3	2	26

平均年齢

男性平均	35.3
女性平均	37.5

障害程度区分

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	平均
人数	0	1	9	26	16	9	4.4

障害等級別状況

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２
人数	26	16	9	4

送迎サービス実績

延利用件数	15,207 人	前年度+768

３．活動内容

作業面では、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、行事、バザー、土曜余暇、日帰り外出を中止とした。従来の相模国分寺跡の除草作業を３デイセンターで共同受注をして、今年度作業工賃が増額となる、カフェ“はみんぐ”の休止により専属で“はみんぐ“に就業されている利用者も作業班での日中活動に参加して頂いた。その他の活動では、陶芸、散歩、ウオーキング、農園芸、手芸、納品・引き取り等を提供した。新たな受注作業として CD、DVD の仕分け作業を年度後半より導入した。コロナ禍で前任者が辞退され新たな PT の嘱託契約が出来ず、肢体不自由者、重度心身障害者の方々へのリハビリの実施と室内運動プログラム等のアドバイスを受けることが出来なかったことは次年度の課題となった。

４．作業会計（2020 年度分）

収入

紙工小師	¥124, 372	国分寺除草作業	¥469, 165
厚木紙工	¥311, 355	綾瀬浄水場除草	¥54, 266
たすけ愛ゆずり愛	¥11, 921	自動販売機	￥13, 883
エコキャップ	¥4, 976	もち米販売	￥11, 700
アラミド	￥6, 971	カフェはみんぐ	￥467, 850
河端商店	￥8, 592	図書取次業務	￥587, 830
農園芸	¥52, 541	パレット	￥2, 470
手芸	¥90, 310	その他	￥500
パソコン受注	¥147, 852	利子	￥3
陶芸	¥5, 100	前年度繰越金	¥37
合計		¥2, 371, 694	

支出

材料費	¥325, 754	利用者賞与	¥992, 328
利用者給与	¥1, 049, 608	銀行手数料	¥3, 960
合計		¥2, 371, 650	

収入	支出	次年度繰越
¥2, 371, 694	¥2, 371, 650	¥44

利用者平均工賃支給額（全体）2, 466 円／月（生活介護＋就労継続支援Ｂ型）
3, 296 円／月（就労継続支援Ｂ型）

５．給　食

給食は業務委託により提供している、利用者の食事形態等についてはその都度見直しが必要な際には業者に連絡し対応した。月 1 回のセレクトメニューを実施した。給食委員会を 2（回／年）実施して業者との連携を図った。

６．健康管理

看護師により 2 か月に 1 回体重測定及び血圧測定を実施、年 4 回の嘱託医検診の他、歯科検診、胸部Ｘ線間接撮影、血液検査、尿検査等の健康診断を年 1 回実施した。

７．防　災

「地震」「火災」を想定した避難訓練をそれぞれ 1 回行い、防災訓練に際しては、事前、事後の職員間での話合いを行い、利用者のスムーズな避難ができる方法の模索を繰り返し行ってきた。また、消火器の取り扱いについての体験を訓練時に行った。法人全体での通報訓練も実施した。一昨年度実施出来なかった風水害を想定した避難訓練は 8 月に実施した。

８．苦情・要望

苦情は７月に１件あった。苦情内容は、７月にコロナ禍での学生実習生２名の受け入れについて４名のご家族より外部の実習生を受け入れるのは時期尚早ではないか？との指摘を受ける。連絡帳や電話にてご説明するが実習生の受け入れについてはご理解を頂けない状況であった。その後の実習生受け入れはコロナ禍の状況の為、受け入れは出来なかった。

９．職員研修

法人内の研修、外部研修に積極的に参加した。事業所内の介護技術等の研修会を実施して必要な技能・知識を学ぶ機会とした。

2020 年度外部研修参加者

日　程	研　修　内　容	参　加　者
7 月 10 日	アンガーマネージメント・パワーハラスメント防止入門講座	由元勝美
12 月 18 日	神奈川県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者「基礎研修」	粕田大五郎

10. 地域との連携

カフェ“はみんぐ”での飲食販売、市内図書館の本等の貸し出し・返却の取次業務、海老名市農政課主催の野菜販売を継続して実施する中、地域の方々との交流を図った。

毎年実施していた自治会との共催による「陶芸教室」はコロナ禍により中止とした。

２０２０年度　グループホーム事業報告

（みずき　しおん　とんぼ　かぶとむし　はなきりん　てんとうむし　ほたる）

１．重点目標の取り組み状況

(1) 支援体制の見直し

常勤職員を増員したことでホーム毎に常勤職員をそのホーム担当として配置し、常勤職員を中心に利用者支援における状況把握および支援方法の確認、その他の情報など円滑な共有を図るとともに、ホーム間においても連携や協力体制を築けるようになった。

(2) 支援の質の向上

経験の浅い職員等へは本人理解、障害理解を深められるよう育成に努めた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各ホーム会議の中止が多くなったことと、研修会など内部で学ぶ機会を設けることが困難であった。

(3) 人権意識の向上

日々の支援の中での利用者との関りの場面やホーム会議での支援方法など確認、検討する時なども常に人権を意識するように努めた。ホームは生活を送る場所であるため必然的に密室性が高くなることと、ひとりで支援に当たる時間も多い環境となるため、継続して職員個々の人権意識を高め、利用者の人権擁護に努めていく必要がある。

(4) 入居者の定員の充足

当初、はなきりんの入居定員に１名の欠員があったが、新型コロナウイルスの流行による共同生活への不安から、てんとうむしで２名の退居者があり、全体で入居者３名が欠員となった。下記の新規ホームの開所のための入居者募集と合わせて募集を行い、１月にはなきりんとてんとうむしの定員を充足した。しかし、しおんの入居者の１名が諸事情により転居が決まり、3月下旬に退居されたことで再度１名の欠員となった。

(5) 新規ホーム（ホーム名：ほたる　定員：７名）の設置

新規ホームの設置（開所）については、新型コロナウイルスの状況を考慮しながら１月開所を目標とした。また、これまでに実施したホーム入居についての意向調査において、男性の希望者が多かったため男性ホームとして準備を始めた。

一次募集として、以前からホーム入居を希望されている方やホーム体験宿泊を利用されている方に加えて、海老名市を中心に案内した結果、一次募集で定員を上回る応募があった。応募者から７名を選考し、予定通り１月から新ホーム「ほたる」を開所した（なお、入居時期を１月と２月に分けて７名の入居者を受入れた）。

２．利用者の状況

入居利用者及び職員配置

住居の名称		定員	入居者	世　話　人 生活支援員	日中活動の場
みすき	みずき	4 人	4 人（女）	8 人	デイ、就継 B
	しおん	4 人･体験 1 人	3 人（女）	3 人	民間会社、学園、就継 B 、デイ
	とんぼ	5 人	5 人（男）	6 人	就継 B、ディ　学園
	かぶとむし	9 人	9 人（男）	8 人	就継 B、民間会社、ディ
はなきりん	はなきりん	8 人	8 人（女）	9 人	民間会社、学園、デイ
	てんとうむし	9 人	9 人（男）	8 人	就継 B、学園、デイ
	ほたる	7 人	7 人（男）	7 人	民間会社、就継 B、デイ

新規入居者：10 名　退所者：3 人　　入居前の住まい：在宅 39 人、入所施設 4 人、他ホーム 2 人

障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
みずき				2		2
しおん			1		1	1
とんぼ				2	1	2
かぶとむし		2	1	4	2	
はなきりん		1	3	2	1	1
てんとうむし			1	5	1	2
ほたる		1	2	4		

利用実績（述利用日数）

	年間利用日	前年比	年間利用率
みずき	1,135 日	-66 日	77.7%
しおん	1,263 日	-114 日	69.2%
とんぼ	1,470 日	-15 日	80.5%
はなきりん	2,325 日	+18 日	79.6%
てんとうむし	2,426 日	-90 日	73.8%
かぶとむし	2,855 日	+66 日	86.9%
ほたる	320 日		50.8%

※新型コロナウイルスによる在宅支援含む　　※体験利用　しおん 14 日　　契約者 18 人

３．体験宿泊の受入れ

新型コロナウイルスの流行により年間通じて体験宿泊の受入れを積極的に行わなかったため、昨年度よりも件数、日数とも大きく減少した。

４．余暇活動支援

新型コロナウイルスへの感染対策として、ホーム毎の外出企画等のイベントの自粛とともに、個別のガイドヘルプサービス利用も必要最小限にしたため、余暇支援として不充分な結果となった。

５．防　災

ホーム毎に火災・地震を想定した避難訓練や通報訓練を実施し、災害時の対応について訓練を通じて確認した。

６．その他

(1) ホームとんぼ入居者の生活音が日常的な騒音となっており、近隣地域の方から苦情および騒音解消の要望があがり、法人事業所や関係機関と連携し支援体制の強化・環境整備・過ごし方および支援方法等の見直し・短期入所の利用・施設入所相談など行い問題解決に努めている。

(2) 労基署の指導を受け、非常勤職員の夜勤において夜間帯の勤務時間および休憩時間の見直しを図り、次年度に向け勤務体制を変更することとした。伴い、非常勤の夜勤スタッフの補充を進めた。

２０２０年度 地域生活支援センター ここ・すき事業報告

１．重点目標の取り組み状況

(1) 安定したサービス提供

年度当初より新型コロナウイルスの流行とともに、感染リスクの高い移動支援サービスについては、利用者およびヘルパーの安全面を最優先とし、年間通してサービス提供の自粛または制限を余儀なくされる状況下となり、実績が激減する結果となった。

(2) ヘルパーの補充と確保

新たなヘルパーの登録はほとんどなく、補充が進まなかった。また、ヘルパーの高齢化により全体のヘルパー人数も減少し、ヘルパーの確保も難しい状況であった。

(3) ヘルパーの質の向上

当初、ヘルパーの質の向上のため入所施設や日中活動事業所等への見学や体験実習、研修会などの実施を予定していたが、コロナ禍を考慮し見合わせることとした。また、前記の通りサービス提供自体が激減したため、ヘルパーの活動機会も激減したことと伴い、ヘルパー個々が経験を積む機会も乏しい状況になった。

(4) 事業形態の見直し

近年より、登録ヘルパーの全体の人数が年々減少していることと、ヘルパーの高齢化が顕著であること、有資格者の居宅介護ヘルパーも極めて少ないこと、ヘルパーの補充が進まないなどのことからサービス提供実績が低迷している状況に加え、新型コロナウイルスの流行および長期化により、事業継続が困難と判断し今年度で事業休止をする準備をはじめることとなった。

２．２０２０年度を振り返って

有資格者の居宅介護ヘルパーが年々減少し、居宅介護サービスの実績を現状維持にすることも難しい状況になっていたため、移動支援サービスのヘルパー確保および利用者確保に努め、移動支援サービスの提供実績の増加を図る構想であったが、前記の通り新型コロナウイルスの流行により、サービス提供の自粛および制限を余儀なくされた。

慢性的なヘルパー不足も大きな課題として残っている中、コロナ禍の状態が長期化しており今日も解消していない現状と今年度の事業実績が過去最大に低下したことを踏まえ、法人内で協議した結果、今年度でここ・すき事業を休止する判断に至った。

契約利用者および登録ヘルパーについては、可能な限り他事業所への引継ぎを行った。

３．利用実績

	児童		身体		成人		計		前年度比	
	件数	時間	件数	時間	件数	時間	件数	時間	件数	時間
移動支援	1	2	15	63.0	355	869.5	371	934.5	−327	−1299.5
身体介護	0	0	194	348.5	66	137.5	259	481.0	−72	−54.5
家事援助	0	0	46	84.5	33	17.5	79	102.0	−25	−78.5
計	1	2	255	496.0	454	1024.5	709	1517.5	−424	−1432.5